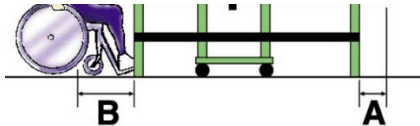


【基本ルールと競技ルール】

1. 用具及び競技条件

- ① 競技者の足を妨げることなく、車椅子が移動可能であり、ダブルス競技の場合は、2台の車椅子が移動可能であること。



標準 A 28 cm ~ 31.5 cm

車椅子の競技者 B 少なくとも40 cm

- ② 車椅子には、少なくとも2つの大きな車輪と、1つの小さな車輪が付いていること。
相手競技者のフットレストや足が競技中、床に触れるとポイントとなる。
- ③ 1つ、または最大2つまでのクッションが使用できる。
その高さ（の合計）は競技条件において **15 cm以下**に制限されており、その他には何も車椅子に付属させてはならない。

2. 車椅子競技におけるサービス

『シングルス』

- ① 正規のサービスを出したが、そのボールがレシーバーのどちらかのサイドラインを（1回または2回以上バウンドした後で）横切った場合はレットが宣告される。
※ボールがサイドラインを横切った瞬間に「レット」
- ② 正規のサービスを出し、そのボールを、レシーバーがどちらかのサイドラインを横切る前に打球した場合、レットは宣告されない。

『シングルスおよびダブルス』

- ① サービスで、出されたボールが、レシーバーのコートに触れた後、ネット方向に戻ったとき、「レット」が宣告される。
- ② サービスで、出されたボールが、レシーバーのプレーイングサーフェスで止まってしまったとき、「レット」が宣告される。

3. 車椅子競技のダブルス

- ① サーバーが最初にサービスを行う。
- ② レシーバーがリターンを行う。
- ③ その後は、障害を持つ組のどちらの競技者がリターンを行ってもよい。
- ④ 競技者の車椅子のどの部分も、テーブルのセンターラインの延長線を越えてはならない。越えた場合、主審は相手競技者の組に1ポイントを与える。

4. 車椅子競技

- ① 相手競技者が、打球する前にどちらかの手がテーブル*に触れた場合は、競技者に1ポイントが与えられる。
(*ここで言う「テーブル」はプレーイングサーフェスだけでなくテーブルの側面なども含むテーブル全体を指します。以下の「テーブル*」も同様です。)
- ② ラリー中、ラケットハンドがテーブル*に触れてよいのは、打球直後のみで、バランスを立て直すためであり、テーブル*を動かさない場合に限られる。
- ③ 競技者は、打球する前に、テーブル*を支えにしてはならない。
- ④ 相手競技者が、打球するとき、少なくとも片方の足の**大腿部の裏側**が、シートまたはクッションに触れていなかった場合、競技者に1ポイントが与えられる。

5. 車椅子で立ってプレーすることは許可されない

- ・両脚とも、大腿部の裏側が車椅子のシートあるいはクッションに触れていなければ、その競技者は立っていることになる。**※ズボンは脚に含まれない。**
- ・特に**クラス4、クラス5の競技者の場合はこの点に注意する必要がある。**

6. 立位競技

- ① ラリー中、フリーハンドがプレーイングサーフェスに触れることは、認められない。
- ② 打球前に、故意に支えとしてテーブル*を使うことは、ペナルティーポイント制が適用される。

7. 立位競技及び車椅子競技（トレーニングウェア）

競技中、トレーニングウェアのズボンを身につけてもよい。
しかし、ジーンズは許可されない。